

# にしじ

## 高知医療センター 岡部学中央手術センター長 退任のご挨拶

..... P2

- 日本核医学技術学会『地方功労賞』受賞 西川智彦医療技術局長・・・ P3
- 第2回認定看護師・専門看護師実践発表会・・・ P4～5
- まごころ窓口と地域医療連携室がひとつになりました・・・ P6
- 地域医療連携病院のご紹介：Vol.84  
医療法人清流会 山本循環器内科・眼科・・・ P7
- 高知医療センター・イベント情報・・・ P8

# 2

FEBRUARY 2016 Vol.124



平成27年度 職員等奨励賞(高知医療センターの掲げる基本理念や基本目標の達成に寄与すると認める著しい功績を上げた職員等に対して授与される)を受賞されたみなさん

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —



# 退任のご挨拶

## 中央手術センター長 岡部 学

皇陛下が受けられた手術として有名になりましたが、当心血管外科では既に1999年よりこの手術を開始しており、1000例以上の手術実績を誇る当科の「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」は、その高い安全性と高い完成度につき全国屈指とご評価をいただいております。この「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」をはじめとして、胸部や腹部の大動脈瘤に対しては胸や腹を開けずに行う低侵襲カテーテル治療（ステントグラフト治療）や、通常の1/2以下の小さな皮膚切開で行う小切開心臓手術、心臓弁膜症に対しては「ただ単に悪い弁を、人工弁にただ取り替える」のではなく弁病変の形や心臓の機能に応じて自分の弁を温存する弁形成手術など、安全で体にやさしい多くの「低侵襲心血管外科手術」を全国に先駆けて行い、トップクラスの手術症例数と成績を収めてまいりました。さらにこの「低侵襲手術治療」の延長線上として、従来の手術室環境に心臓血管カテーテル検査室環境を備えた多機能最先端手術室である「ハイブリッド手術室」に予算措置をいただき2014年6月に「ハイブリッド手術室」が完成、2014年11月14日に「経カテーテル的大動脈弁人工弁置換術（TAVR/TAVI）」実施施設認定を取得し、2015年より開始する事ができました。

振り返りますと、あつという間の19年間でありましたが、その間に低侵襲手術を中心に心血管外科手術6366例を行い、同時に多くの重要な仕事を完遂できましたのも、多くの皆さま方のご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

この高知医療センターという素晴らしい施設で働いたことを誇りに、今後もより良き医療を求めて精進してまいりたいと考えております。

長きにわたり、本当にありがとうございました。

退任のご挨拶を申し上げます。

長きにわたり多大なご支援・ご協力を賜りました事に心よりの感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

私は1997年に静岡県浜松医療センターより高知市立市民病院心血管外科に赴任しましたが、県・市病院統合による高知医療センター開院後、2005年3月に同医療センター心血管外科主任科長、2006年4月に循環器病センター長、2014年に中央手術センター長を歴任いたしました。高知医療センター赴任からは10年10ヵ月、高知市民病院赴任から19年間をこの高知県でお世話になりました。まさにあつと言う間の19年間でしたが、高知県に赴任以来、常に身に余る機会をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

その間、高齢化の進んだ高知県においては「体に優しく安全性の高い低侵襲手術」の実現が最重要課題と考え、従来の手術方法に安住することなく、常に「より体に優しくより安全性の高い低侵襲心血管外科手術」を追求してまいりました。

従来の心臓手術は人工の心臓・肺である人工心肺装置を使って心臓を止めて行うため、体や心臓に負担の大きい大変な手術というのが常識でありましたが、我々心血管外科チームでは、人工心肺装置を使わず心臓も止めず行う、体にやさしい「低侵襲心臓手術」に早くから取り組んでまいりました。

「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」は、天

# news!

## 日本核医学技術学会 『地方会功労賞』

# 受賞!!

医療技術局長

## 西川 智彦



この度、平成27年10月5日に東京で開催された、第35回日本核医学技術学会総会学術大会において中国・四国地方会で学会の運営・発展に貢献したということで地方会功労賞をいただきました。

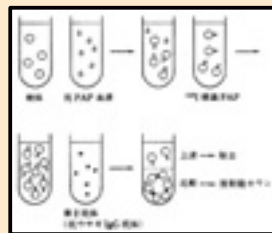
私がはじめて核医学検査に出会ったのは、1978年の高知県立中央病院での実習中のことでした。当時の検査はドット式のシンチスキャナーと、レノグラム装置が動いているものの、コンピュータのない時代、シンチスキャナーでは4色のカラーのインクリボンで打点し画像化していたことが思い出されます。インビトロ検査では、RIA法での甲状腺ホルモン検査が主流だったと思います。翌年に診療放射線技師として同病院に就職することができ、その後、放射線技師としていろいろな業務に就くなか、核医学検査の方で先輩方から指導を受け、この道に入っていました。



シンチスキャナー



私自身、県立中央病院での研究発表等はインビトロ検査のものが多く、その当時RIA法の全盛期で新しい腫瘍マーカーのKitが数多く発表され、ネタは尽きませんでした。日本核医学技術学会では、理事、評議員、中国・四国の学会・研究会などでは実行委員長、世話人、相談役等の役員に付き、そのなかで2004年には数々の先輩方、地方会会員の皆さまのおかげで、第16回日本核医学技術学会中国・四国地方会の大会長を経験することもできました。このようなことを功績と認めてもらい、今回の賞をいただけることになったと思っています。今後は、微力ながらも後継者の育成に貢献できればと考えております。



インビトロ



また、業務に於いても県立中央病院、高知医療センターで多くの装置、検査を経験することができました。2017年4月には新設のがんセンター内にPET/CTを含めた核医学検査室が新しくオープンいたします。私の夢でもあったこのPET/CTに触れて定年を迎えたいと思っています。

西川 智彦

テーマ

つなげよう！看護の力



長崎みなとメディカルセンター市民病院  
救急看護認定看護師 増山順二先生

昨年11月15日に第2回認定看護師・専門看護師実践発表会が開催されました。今年は院内外から129名の方にご参加いただきました。ご参加下さいました皆さまにおかれましては、お忙しい中、足を運んでいただきありがとうございました。

2回目となる今回は、施設間の連携強化を目的に「つなげよう！看護の力」をテーマとしました。院外からも4演題を発表していただき、ともに学ぶことができ、地域連携の一助を担えたのではないかと思います。県内の認定看護師・専門看護師が領域を超えて集まる機会が得られ、貴重な時間を共有できたことは、発表会の大きな成果の一つと言えます。

また、基調講演には長崎みなとメディカルセンター市民病院より、救急看護認定看護師の増山順二先生をお迎えして、「臨床の質を向上するための看護教育～IDの視点から～」というテーマでご講演いただきました。効果的・効率的な看護教育について、教育設計の方法論を学べたことで、看護教育の視野を広げることができました。

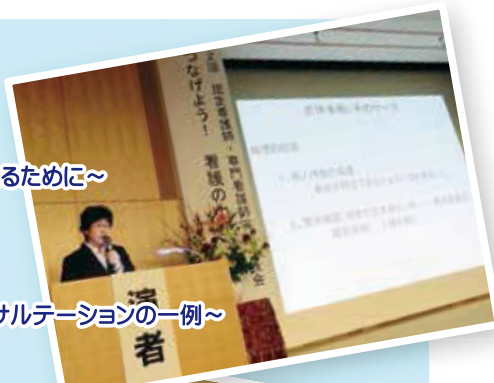
実践発表内容

【第1群】〈座長〉三浦由紀子 西川美千代

1. 心疾患を持つ子どもの家族に行った救命技術指導の振り返り～不安を軽減させるために～  
【小児救急看護認定看護師】馬場万里子
2. 難治性疾患を持つ患児のへり搬送における家族看護の一考察  
【急性・重症患者看護専門看護師課程修了】岡林志穂
3. インスリン注射の受け入れを拒否した患者への関わり～患者中心のケースコンサルテーションの一例～  
【社会医療法人仁生会細木病院 糖尿病看護認定看護師】片岡典代
4. 認定看護師による専門看護研修を実施して  
【独立行政法人国立病院機構高知病院 皮膚・排泄ケア認定看護師】竹内真弓
5. NICU・GCU での退院支援に向けた連携～認定看護師と専門看護師の連携に焦点をあてて～  
【新生児集中ケア認定看護師】山本晃子
6. NICU・GCU から地域への看看連携の実際 【小児看護専門看護師】笹山睦美

【第2群】〈座長〉森本雅志 山崎みどり

7. 介護スタッフへの感染管理指導～療養病棟におけるオムツ交換手順の見直しへの関わりを通して～  
【社会医療法人仁生会細木病院 院内感染対策室 感染管理認定看護師】土居世知
8. 認知症疾患医療センターでの活動について～院内から地域へ～  
【高知県地域型認知症疾患医療センター渡川病院 認知症看護認定看護師】梅木千鶴
9. 摂食・嚥下チームの回診制度導入に関する報告 【摂食・嚥下障害看護認定看護師】岡村かのこ
10. 緩和ケアチームの専従看護師としての活動の実際 【がん看護専門看護師】池田久乃
11. 皮膚・排泄ケア認定看護師が複数在籍することで得られる成果と課題 【皮膚・排泄ケア認定看護師】竹崎陽子
12. トリアージナースを RRT として活用した RRS の有用性の検討 【救急看護認定看護師】伊藤敬介



発表会終了後の交流会では、多施設の方との意見交換ができ、有意義な時間となりました。

スペースの関係上すべてを掲載することができませんが、アンケート結果を一部ご紹介させていただきます。

## 第1位「つなげよう！看護の力」を最も感じた実践発表

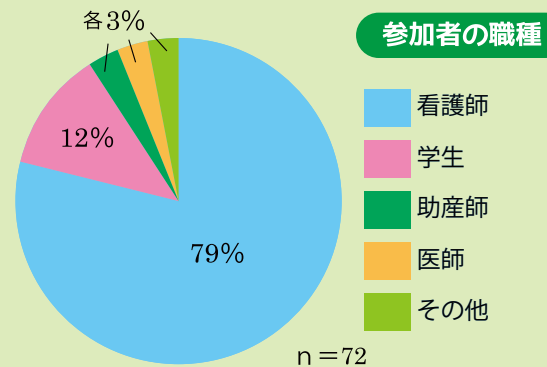
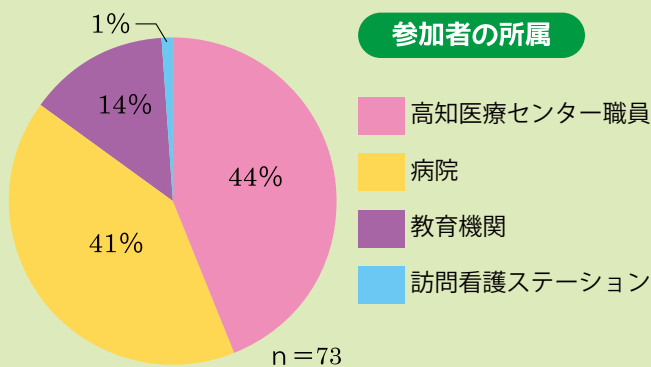
### NICU・GCUから地域への看看連携の実際 小児看護専門看護師 笹山 睦美

私が所属する高知医療センターは、高知県唯一の総合周産期母子医療センターであり、NICU (Neonatal Intensive Care Unit) ・GCU (Growing Care Unit) フロアには、小さく産まれた赤ちゃんや産まれてすぐに治療が必要な赤ちゃんが入院されています。現在、退院支援・退院調整に関わるコーディネーターとして、主に、小さく産まれた赤ちゃんや治療をがんばっている赤ちゃんたちが、自宅や他施設で安心して安全に生活できるためのお手伝いをさせていただいています。今回の実践発表会では、「つなげよう！看護の力」というテーマのもと、地域で赤ちゃんやご家族の生活を共に支えてくださっている訪問看護師の方々との連携について発表させていただきました。



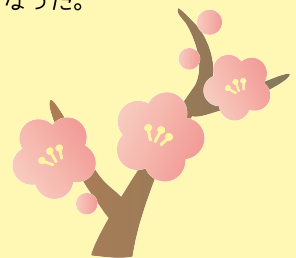
今回の発表を通して、産まれた直後から入院生活を余儀なくされている赤ちゃんの生活の場が、「医療」が中心である病院から「療養」が中心となるご自宅へと移り変わっていくプロセスのなかで、地域で赤ちゃんやご家族を支援していく訪問看護師の方々のひとつひとつのケアを丁寧に共有し、支援方法を共に検討していくことの重要性を改めて感じました。

今後も、地域の専門職者の方々のお力をいただきながら、生活基盤が病院から地域へとスムーズに移行できるような支援を目指していきたいと考えております。



### ご意見・ご感想

- ◆高知県内の認定・専門看護師が集まり、多施設の方の活動を知る機会であり、大変参考になった。
- ◆これから CNS/CN を目指す看護師にも良い機会であると思う。
- ◆同じ CN として、こうして多分野の取り組みを聞くことができたことは貴重だと思う。
- ◆県内の CNS/CS の活動を発表できる機会は良いと思う。情報の共有やネットワークにもつながり、モチベーションが上がると思う。
- ◆多施設からの発表であり、それぞれの場での実践を知ることができ、思考や方法のバリエーションを増やすことができた。
- ◆地域で専門性を高める取り組みが実践されていると思った。



アンケートにご協力いただきありがとうございました。



2016 年度も開催を予定しています。院外の方もぜひご参加ください。

次年度はより多くの方にご参加いただき、さらなる看護の質向上につなげることができる発表会となるよう、今後も取り組みを続けていきたいと考えております。

# まごころ窓口と地域医療連携室が ひとつになりました

当院では、昨年11月末に地域医療センター内の「まごころ窓口」と「地域医療連携室」の一体化を行いました。

まごころ窓口 (msw consulting reception) は、患者さんからのあらゆるご相談を受け、医療ソーシャルワーカーを中心に多くの職種と、また他の部署と連携しながら患者さん支援を行っている窓口です。



この2つの部署を一つにまとめ、これまで患者さん相談のためのサロンとしていた場所を新しい執務室に模様替えしました。医療センター正面玄関を入りますと、左手に目に付きやすいガラス張りの0番まごころ窓口があります。窓口受付カウンターの背後にソーシャルワーカー、診療情報管理士等の職員を配置し、窓口での相談に携わるとともに退院支援等の地域医療連携室の業務を行っています。



新しい「まごころ窓口」・「地域医療連携室」の外観です

地域医療連携室は、開院当初は前方連携の業務を中心としていました。開院の翌年(2006年)から始まった医療制度改革に対応して、それまで患者さん相談の一部であった退院支援を強化するため年を追って体制を整備してきました。今では前方事務3名、医療ソーシャルワーカー6名、看護師5名、事務2名の大人数になっています。



診療報酬改定のたびに医療制度改革が進み、医療機能の分化、強化、県内の病床再編の動きがより鮮明になってきました。地域医療連携室では昨年より「顔の見える連携」を一步進めた「より信頼関係が構築された連携」を目指した連携強化の取組みを始めています。

まごころ窓口と地域医療連携室の一体化は、結集した力をここうした新しい取組みに投入しようという狙いを持ったものでもあります。

今後とも連携強化の取組みにご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 医療法人清流会 山本循環器内科・眼科

〒783-0002  
 高知県南国市駅前町 3 丁目 1-41  
 TEL : 088-864-2575  
 FAX : 088-864-4208  
 H P : <http://www.dryumiclinic.com>

【診療科】  
 内科、循環器内科、眼科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30 ~ 12:00	●	●	●	●	●	●	△
13:30 ~ 18:00	●	●	●	●	●	△	△

(休診日：日祝日・年末年始)

当院は、初代院長山本節子が、昭和28年、南国市後免町にて「山本内科」として開業し、昭和41年南国市駅前町へ移転しました。昭和59年に、二代目現院長が「山本循環器内科」として引き継ぎ、平成16年に眼科を増設して、「山本循環器内科・眼科」と現在の名称に改称しています。

現院長は、千葉大学出身で、同大学医学部附属病院・千葉大学保健管理センター・千葉社会保険病院等に勤務した後に開業し、30年以上になります。副院長は、高知医科大学（現在の高知大学医学部）出身で、在学中はカナダ ブリティッシュコロンビア大学で臨床研修を修了しています。卒業後は高知大学附属病院での外来勤務を継続しながら、眼科診療を主として担当しています。専門の異なる二人の医師が勤務する当院では、循環器疾患を始めとする内科一般領域から、全身疾患であるぶどう膜炎を含めた眼科領域での幅広い分野における診療活動を行っています。

(山：山本循環器内科・眼科、高：高知医療センター)

高：貴院が現在力を入れていることを具体的にお聞かせください。

山：内科では不整脈の診断治療に最も力を入れています。不整脈の発見の為に、12誘導心電図は当然として、携帯心電計による随時記録、ホルター心電図も積極的に記録するようにしています。この一環として、過去20年以上にわたり、他院より依頼されたホルター心電図の解析も行っています。また、高血圧・糖尿病・脂質異常・CKD・COPDの診断治療にも、内科一般診療として、当然力を入れています。副院長は、眼科一般診療の他に、禁煙治療外来や、女性医師による診察やコンサルトを希望する患者さんの対応もしています。更には、英語力を生かし、外国人患者も積極的に受け入れています。



院長、副院長とスタッフのみなさま

高：地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなどお聞かせください。

山：地域との連携では行政との契約に基づいて、学校医活動(後免野田小・三和小)、BCG以外の予防接種の実施、特定健診の実施、介護保険主治医意見書の作成などに取り組んでいます。また、最近少し遠ざかっていた市民対象のわかりやすい病気の話も近々再開したいと思っています。他の医療機関との連携では、診断や治療に困った患者さんは、高知医療センターを始めとした高次機能病院や、希望された病院へ早めに紹介するようにしています。また、病状の安定した患者さんの逆紹介受け入れにも対応しています。医療センターの症例報告会などにも時間の都合がつけば出席するようにしています。

高：今後、貴院が目指されていくことなどをお聞かせください。

山：訪問診療、往診などの在宅医療をさらに充実したいとの思いはありますが、内科医が一人の為、現在行っている以上の量的拡大には無理があり、医師のスキルアップによる質的拡張を目指したいと考えています。在宅での末期がんの患者さんの看取りは、今後も、条件が合えば対応したいと考えています。また、眼科でも往診診療を行っており、ご要望があれば、より多く対応して行きたいと考えています。

高：最後に高知医療センターとの連携についていかがですか？

山：どんな時でも、またどんな患者さんでも、いつも気持ちよく対応下さることに大変感謝しています。また、返信も非常に詳しく、かつ分かりやすく書かれていますので、とても勉強になります。今後も、高知医療センターとより一層の連携を図っていきたく考えています。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
2月	1	月	<b>高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修 (参加費無料・事前申込要)</b>			
			内容	医療における倫理的課題	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			時間	18:00～19:30	対象	県内医療従事者 看護教育機関の教員・学生
				講師 国立大学法人千葉大学看護学部 教授 手島 恵氏		
				参加ご希望の方はお問合せください お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(藤原、野田、藤本) TEL:088(837)3000		
	13	土	<b>高知医療再生機構 小児科専門医養成支援事業 協力科の先生に学ぶ 第2回 (参加費無料・事前申込不要)</b>			
			内容	小児科医にも知っていただきたい 小児の口の発達と摂食嚥下障害	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			時間	15:00～16:15	対象	医療関係者
				講師 朝日大学 副学長・歯学部教授(小児歯科学) 田村 康夫氏		
				お問合せ: 高知医療センター 小児科 西内 律雄 TEL:088(837)3000		
	18	木	<b>第19回高知医療センター 内科症例報告会 (参加費無料)</b>			
			内容	症例報告5-7題(予定)	場所	高知医療センター 11階 よさこいサロン
時間			19:00～20:30	対象	医療関係者	
			お問合せ: 高知医療センター 地域医療連携室 TEL:088(837)3000			
20	土	<b>第6回高知医療センター看護実践発表会 (参加費無料・事前申込要)</b>				
		内容	テーマ:その人らしい暮らしを支える看護の輪 特別講演:今、大きく変わる 地域包括ケアの時代へ ～看護が果たす役割～	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	13:00～16:30	対象	医療関係者	
			講師 高知県立大学 看護学部 教授 森下 安子氏			
			参加ご希望の方はお問合せください お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(藤原、野田、藤本) TEL:088(837)3000			
21	日	<b>高新・高知医療センターがんセミナー・2015 (参加費要・事前申込要)</b>				
		内容	臓器がんについて	場所	高新文化教室(RKC高知放送南館3階37号室)	
		時間	10:30～12:00	対象	一般(40名)	
			講師 高知医療センター 消化器外科医長 岡林 雄大			
			お問合せ: 高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回			
27	土	<b>第37回(平成27年度第4回)高知医療センター 地域がん診療連携拠点病院 公開講座 (参加費無料・事前申込不要)</b>				
		内容	テーマ1:大腸がん「大腸癌外科治療の最前線」 テーマ2:婦人科がん「子宮頸がんについて」 テーマ3:整形のがん「軟部腫瘍いわゆる「しこり」について」	場所	サウスブリーズホテル 2階「アニエス」(高知市農人町5-29)	
		時間	14:00～16:30	対象	一般(150名)	
			講師 テーマ1:高知医療センター 消化器外科・一般外科医長 寺石 文則 テーマ2: 同 婦人科医長 山本 寄人 テーマ3: 同 整形外科医長 沼本 邦彦			
			お問合せ: 高知医療センター 経営企画課 TEL:088(837)3000			
28	日	<b>高知医療センター 院内コンサート (参加費無料・事前申込不要)</b>				
		内容	鏡野吹奏楽団	場所	高知医療センター 1階 ふれあいロビー	
		時間	13:30～14:30	対象	一般	
			お問合せ: 高知医療センター 経営企画課 TEL:088(837)3000			
3月	5	土	<b>第41回地域医療連携研修会 (参加費無料・事前申込不要)</b>			
			内容	講演1:アタマの中の災害のはなし～脳卒中に備えよう!～ 講演2:脳卒中になってしまったら ～リハビリと生活について～	場所	総合あんしんセンター3階(高知市丸ノ内1丁目7番45号)
			時間	14:00～15:40	対象	医療関係者
			講師 講演1:高知医療センター 脳神経外科科長 太田 剛史 講演2: 同 理学療法士 小林 誠治			
			お問合せ: 高知医療センター 地域医療連携室 井上・松本 TEL:088(837)3000			

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

## 編集後記

本号の表紙に写っているひとたちは「職員等奨励賞」をうけた職員です。賞の内訳は医療の質・安全奨励賞、学術奨励賞、接遇奨励賞、医療経営奨励賞、教育奨励賞、優秀研修医賞です。病院職員はほぼ全員がなんらかの国家資格を持って仕事をしていますが、医療の進歩についてゆくためには、どうしても日々の努力あるいはさらなる資格の取得が必要となります。熱心な職員もいますが、普段の仕事で手一杯のこともあり、全体としては研修への参加に必ずしも意欲的でないこともあり、昨年度から意欲的な職員を「職員等奨励賞」で表彰するようにしました。いざ決まってみると学術奨励賞はとくに大勢が受賞しました。(広報委員 山下)



平成28年2月1日発行  
にじ2月号(第124号)  
毎月発行  
編集者: 広報委員会  
発行者: 吉川 清志  
印刷: 株式会社 高陽堂印刷

発行元:  
高知県・高知市病院企業団立  
**高知医療センター**  
〒781-8555 高知県高知市池2125-1  
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp